

# ○ 畜産農家の皆様へ ○

## 輸入飼料を給与した牛に由来する 堆肥を販売・譲渡・施用する際にはご留意ください！

海外で使用された農薬の成分(クロピラリド)が含まれた飼料が家畜に給与された場合、**堆肥を通じて、トマト、スイートピー等の園芸作物や、マメ科牧草等※の生育に障害を起こす可能性があります。**



### ○ 牛由来の堆肥を販売・譲渡する際には、情報を共有しましょう。

輸入飼料を給与した牛に由来する堆肥(排せつ物を含む)を、販売・譲渡する際には、「クロピラリドが含まれている可能性があるため、使用に当たっては、作物の種類や施用量等に留意する必要がある」ことについて、情報を共有しましょう。

### ○ マメ科牧草もクロピラリド感受性が高いことから、施用する場合には留意が必要です。

#### ★ 「牛ふん堆肥中のクロピラリド実態調査」について

国においては、平成29年2月から3月の期間に、堆肥中に含まれるクロピラリドの全国調査を実施しました。その結果、

- 1 全体の7割程度の牛ふん堆肥からクロピラリドが検出
- 2 牛ふん堆肥中のクロピラリド濃度には地域差はない  
という結果となりました。

そのため、クロピラリドによる生育障害を防ぐためには、トマトなどの感受性が高い作物に、牛ふん堆肥を使用する場合には、

- ・ 過剰な施肥を避ける
  - ・ 施設栽培やポット栽培などへの使用を避ける
- ことが重要です。十分ご留意ください。

#### ～ 参 考 ～

- ① クロピラリドは、広葉雑草(クローバーなど)を枯らす除草剤の成分で、我が国が粗飼料や飼料穀類の多くを輸入している米国、豪州、カナダ等の各国で使用されています(我が国では申請がなく農薬登録されていません)。
- ② クロピラリドは、家畜の体内から速やかに排出され、家畜や人に対する毒性が低いため、飼料に含まれていても、家畜や人の健康に影響を及ぼす心配はありません。
- ③ クロピラリドに対する感受性は、作物や品種により大きく異なりますが、トマト、ナス、大豆、スイートピー、マメ科牧草などの作物にごく低濃度でも障害を引き起こす可能性があります(イネ科作物は耐性があるため、通常の施用量では稲、麦、とうもろこしやイネ科牧草の生産に障害を引き起こす心配はありません)。